

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛 I		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	平成26年10月18日	評価結果市町村受理日	平成26年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざし「愛されるホーム」「支えられるホーム」を目指し、5年目を迎えました。今では「ここに慈愛があるから、この地域が活気づいて有難い！慈愛のお陰で地域が明るくなった！」とうれしい言葉かけをしていただく程になりました。地域とホームの関係ではなく、利用者様、家族様、スタッフ一人一人が地域住民の一人として関わりながら、交流を深め、協力し合いながら生活しています。常に、「その人らしさ」のケア、「今を大切に！」の言葉を心に刻み、利用者様の生き生きとした笑顔が絶えない生活、満足していただけるケアを目指し、更にスタッフ一同、思いを一つにして日々頑張っています。

ホーム前のバス停に置かれたベンチに腰を下ろすと、まさに地域に見守られていることが伝わってきた。地区で開催される『一日一汗運動』に参加した一人の入居者が、縁側で地域の人々と一緒にお茶を飲みながら、「私は幸せ！」と発せられ、笑いに包まれたことが、雑巾がけをされる姿と共に広報誌に掲載されていた。自分の『今』の時間に、幸せと語られることは、本人だけでなく家族にとってもどれほど嬉しいことであろうか。また、この言葉は職員にとっても励みになる何よりの一言であると思われる。秋晴れの中、洗われた入居者の靴がきれいに干されている光景がホームの日常を物語っているようであり、地域に根ざし「愛され・支えられているホーム」の中で展開されている入居者の穏やかな日常生活、それを支える職員の生き生きとした姿は実に温かく、福祉に携わる者だけではなく多くの人々に一度は訪れて欲しいと思いたくなるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、重点目標を事務室内、ホール内に掲示し、理念に即した行事計画を立てている。また、毎朝のミーティング時に全職員が目標を発表し、利用者の日常生活の活性化に繋げている。	法人広報誌『五松園だより』新年号では、「文化活動」など三項目の充実や「今」を大切にした支援への誓いを今年の抱負として紹介されている。理念をはじめとしたホームの姿勢は、家族総会や推進会議などで説明や振り返りを伝えることで、職員の意識を高め、関わる全ての人々に信頼・愛される事業所運営に繋がっている。穏やかな語りと思いやりの支援の中で、入居者の笑顔が日常を物語っており、まさにホーム名『慈愛』の精神を感じ取る取ることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉活動や地域活動へ参加し、地域住民との相互交流を深めている。交流が深まることにより近隣住民からホームの為に交流行事が開催されている。最近では、参加者が増えるなど繋がりが拡がり、地域との関係が更に構築されている。	法人代表者への信頼と共に、開所時からホーム一丸となって地域の一員となるべく姿勢や取り組みから、良好な関係は増し現在に至っている。このことが何よりも入居者・家族の安心となっていることは、聞き取りや書面からも確認された。職員の発案で始まった地域との交流『茶話会』は、一軒一軒文書を手にし案内を行い、「その時だめならいつでもおいでください！」と、一言添えるなど細やかな配慮が、地域の人びとの心も温めている。	一步玄関を出ると「天気いいですね～！」「今日はなんですか～！」と、どこにでもあるような近隣者との会話から、地域の中のホームとして日常が展開されていることが窺えた。管理者は今後、『認知症カフェ』への取り組みなど、更に地域の中のホームとしての展開を語っている。実現に期待が持たれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流を目的としたホーム行事で、キャラバンメイトの役割を活かし勉強会を開催して、認知症の人の理解や支援方法を行っている。また、地域への行事へも積極的に参加し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの提供報告やホームの運営に関する相談等を行い、意見が運営に活かされている。ホーム行事(敬老会やそうめん流し等)や防災協力体制、地域行事の協力が得られた。	ホーム内のリビングで入居者を身近に感じながら定期的開催される会議は、議事録や資料からもホームの取り組みを詳細に知ることができる。事業計画や毎月の行事・業務日程からは月2回介護用品点検・整備が組み込まれており、研修や委員会活動と合わせホームの安全管理への徹底が確認される。参加者の発言内容からも、ホームの強力なサポーターであることが伝わってくる。また、メンバーより町の民生委員の見学(15名)を依頼されるなど、ホームへの信頼度も窺える。	会議の前後には参加者がユニットを移動して、状況を見られたり会話をされるなど交流の機会が持たれている。一辺通りではない進行への工夫が随所に表れており、今後もこの会議がホームの運営に活かされていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、またはグループホームからの相談事や地域福祉に関しての情報交換等を行うなど、連携を取っている。	行政担当者や包括職員とは推進会議の席に限らず、日頃から相談や質問事項に対して適宜アドバイスを受けるなど良好な関係が構築されている。また、役場出張所は隣接しており、防災訓練でも協力体制があるなど入居者にとっても身近な存在となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を開放しており、外に出られる方は、職員が付き添い対応を行っている。研修会、勉強会にも積極的に参加、身体拘束についての理解、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会は法人はじめ、ホーム内でも日頃の業務の中で周知徹底されており、日中はいつでも外出できるオープンな玄関であり、自由な活動が支援されている。管理者は職員自身が心身健康でゆとりを持って入居者に関わることが重要であると指導し、優しい思いやりの介護が行われている。また、体調が優れない時や、外出できない季節、雨天時であっても、季節の草花を飾ったり、大きな窓から庭先や人・車の往来を間近に眺められることも安定した支援に繋がっているようである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自主的に勉強会に参加し、理解を深め、虐待防止徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業の利用者様は入居されていないが、勉強会に参加し、更にホーム内での自主的な勉強会を行い、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金、入退居の条件等十分な説明を行い、ご家族の相談を聴き、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、日常のコミュニケーションの中から意見や要望を引き出し、家族様からは意見箱や面会時、家族会(年2回)で意見を聞き取り、それらを運営に反映させている。	「今」を大切に支援の充実に向け、入居者・家族の思いや意見・要望などを把握し、全職員がチームワークを持ってホーム運営に取り組んでいる。玄関先に意見箱が設置されているが、これまでの利用は殆どなく、何か要望があれば直接、どの職員にでも話しをされているとのことである。職員がゆとりを持って生き生きと業務にあたる姿は、入居者・家族が身近で相談や話しやすい雰囲気となり、更に信頼へと繋がっている。	家族はホームのみならず、地域の方々への感謝から、「何かお礼の機会を」と、相談される方もおられたようである。地域と一体となった運営は家族の安心するところであり、今後も変わらぬ取り組みが継続されていくことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や日々のコミュニケーションにより、随時、職員の意見や要望を聞き、日常業務の流れを見直すなど職員の提案を反映させている。	会議や研修会の機会に限らず、管理者は自身のこれまでの経験を活かし、職員とのコミュニケーションに努め、自然に意見の出る雰囲気や勤務時間、人員配置への配慮など働きやすい環境の整備にあたっている。この事は退職者や職員家族もイベントや草刈りなど惜しみない協力にも表れている。管理者は職員、家族の様々な協力を感謝を語っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて勤務時間の配慮を行い、働き易くされている。行事時は人員を増やす等、職員の負担にならない配慮もされている。日頃の努力や勤務状況等を把握し、職員処遇への反映、向上心を持って働けるような配慮、対応がなされた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内、県外を問わず、研修会には積極的に参加している。法人内でも勉強会が行なわれているので、積極的に参加し全職員が質を向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、研修の中での交流や相互訪問の活動を行い、互いに良いところを取り入れ、サービスの質を向上し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、本人様の希望、要望をうかがい、納得の上で、入居して頂いている。良い関係作りをする為に、家族様へ生活歴、趣味等の記入をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、家族様の希望、要望をうかがっている。担当ケアマネジャーからの情報も聞き、ホームに対する不安が排除出来るような関係作りから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの機能を説明し、本人様、家族様の希望をうかがったり、担当ケアマネジャー等の助言をいただいたりして、サービスの対応策を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意思を尊重し、やりたい事、出来る事を見守り、出来ない事が出来るようになる為に一緒に行っている。一人一人との会話の機会を設け、共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密に取り、生活状況、心身の様子等を家族様に伝えている。行事への参加を呼び掛け、本人様、家族様との時間が保てる様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中に出てきた場所や人名を見極め、個別ケアしている。地域等の行事に積極的に参加し、地域の方との交流の時間を提供することで、馴染みの関係が継続出来ている。	馴染みの人や場所など可能な限り対応に努めており、地域行事への参加は友人・知人との再開の機会となっている。今年は地元の諏訪祭り神輿見学が激雨のため中止となったが、この祭りでのみ販売される菓子『大砲巻き』が家族より差し入れされ、入居者は「懐かしなあ～！」「うんまかあ～！」と、昔を思い出しながら笑顔で食されたとのことである。また、端午の節句時期には、菖蒲を湯に入れたり、頭に巻くなど古くからの習わしが継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。また、利用者様が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態を把握し、必要に応じて本人様、家族様の相談に応じている。施設へ入所された方には経過を見守り、施設へ訪問した際は声を掛ける等関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションから、本人の希望や思いを把握し実践へと繋げている。困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談し、その都度対応している。	日頃の会話の中に入居者の思いがあることを認識し、一人ひとりの入居者にゆっくりと関わり、その方にふさわしい支援を共有している。また、職員と共に、入居者も互いのユニットへ足を運ぶことで、一つのホーム『慈愛』として、全職員の気づきや提案がプランに反映されている。家族へも日頃から状況を伝えながら、本人本位の支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族様、外部から面会に来られた時等、会話の中での情報を収集し、日頃のサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見を聞き、状態変化に伴い、モニタリングを行いながら介護計画作成者が作成している。またケアマネジメントセンター方式を取り入れ、日々の個別記録を活かし、プランに反映させている。	プランの作成にあたっては、ホームの取り組みや近況を伝えながら、「こういうプランを立てました」と申し添え、共に内容を検討し、わかりやすい説明を心がけ承認を得ている。作成はケアマネジャーが行っているが、プランに関する研修会を定期的開催し、家族や関係者と共に全職員で作り上げることが共有されている。	計画作成担当者は、「自立」の支援にあたりどこまでが自立なのか？など、現況に満足することなく、常に課題を持って計画を担当していることが聞き取りからも確認された。真摯な取り組みが今後も入居者・家族を支えていくことと思われる。期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。見直しについては、日々の状態を申し送り、担当者会議を開き、プランの中に反映させる事に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が急きよ、通院介助が出来なくなった場合などは、希望に応じて柔軟に対応している。外泊、外出の際には、本人様、家族様が満足出来る様に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の消防団、駐在所との情報交換が出来、支援体制の構築が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態変化時は、かかりつけ医へ連絡、状態報告し、受診している。場合によってはかかりつけ医との情報交換も行っている。	ホームの協力医をかかりつけとして、入居者の状態を見ながら必要な時に受診する体制をとっている。担当医師とは普段から入居者の状態を相談するなど連携がとれており、予防接種においては医師がホームを訪れ、直接入居者と意思疎通を図りながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に状態を報告し、助言、指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるようにしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族様に、回復状況の確認や情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくるとホームでの支援が、現状では出来ない事を入居前に説明を行っている。重度化しつつある場合は早い段階で家族様に状態、状況を説明し、方針を理解していただいている。	契約時の説明の中にターミナルケアについての内容を盛り込み、グループホームならではの生活を重視するとしてホームの方針により、行わない旨を伝えている。職員は入居者との日々の関わりから心身両面にわたり些細な変化を見逃さず、1対1で会話したり、家族へ面会を依頼し安心してもらうなど、ホーム生活を長く続けてもらううえで必要なケアを心がけ、安定した日々を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急処置のマニュアルを作成し、勉強している。また、研修などにも積極的に参加している。夜間時の緊急対応には、地元の職員を当番制にし、すぐに駆け付けられるよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、年2回は近隣の方や地元消防団と合同で、防災訓練を行っている。夜間想定での避難訓練や自然災害に対する訓練も取り入れている。災害の発生時に備えて保存食を備蓄している。	昼・夜を想定した火災訓練や地震・水害などの自然災害に対する訓練を実施し、近隣住民の協力や消防団による建物内の配置、避難経路の確認もできている。ホーム近くの斜面に現在砂防ダムが建設されており、地域の安全対策に住民の期待が寄せられている。火元やコンセント回りなど通常点検を義務付け、まずは火を出さないことを共通認識として危機管理に取り組んでいる。また、地元駐在所からは、高齢者に関する身近な問題点で講演をしてもらうなど心強い存在となっている。	日頃の地域住民との交流が緊急時の連携にも活かされており、今後も引き続き訓練を通じ連携強化に努めることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に置き、人格を把握、尊重し、言葉かけやプライバシー保護には、十分に気をつけ個別ケアに努めている。	職員は入居者に馴染みの方言を交えながらやわらかな口調で語りかけ、食後の穏やかなひと時には、得意の歌に身振り手振りで参加する姿が確認された。信頼関係が構築し、互いを気遣う言葉や冗談で職員を笑わせる入居者の様子に温かいホームの雰囲気を感じとれる。個人情報保護や守秘義務への徹底も図られている。	現在入浴時に同性介助を望む方はいないということであるが、再度確認の機会を持ち今後の支援に反映されるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の職員とのコミュニケーションにより、本人の思いや希望を感じ取れるように、また、本人様が意思表示し易い様な雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の利用者様の状態に応じて、動いているが、行事の日は集団での歩調、行事の時間に合わせて行動して頂く事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう、支援している。好みの衣装を把握し、一緒に準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに好みの物や旬の物を取り入れたり、利用者様が菜園で収穫した野菜を使うなど家庭的な味付けに心掛けている。皆で一緒に作れる物(餃子、お好み焼き等)を提供し、一人一人の能力に応じて下準備、配膳等一緒に行っている。	ユニットごとに別メニューとなっており、入居者の意見を聞きながら職員の得意料理が振る舞われている。男性職員の中にはホームで提供する前に、自宅で実際に作ってみて納得したものを出すなど食へのこだわりが窺える。入居者も下ごしらえや味付けなどに関わり、「えび飯」、「太刀魚料理」など郷土料理も取り入れ会話の弾む食事風景であった。また、おやつ作りも楽しみとなっており、特に庭先の柏の葉を使った「柏だご」では、葉のゆで方や手さばきなど先人の知恵が発揮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を作成、記入し、把握している。状態に応じて食事量や食事形態を工夫し、提供している。水分が少ない方には、お茶ゼリーを作る等して水分確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを、毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握、表情や行動を見てトイレへの誘導を行うなど、自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツから布下着へと変更できた利用者様もいる。	排泄チェック表を活用し、個別に声掛けや誘導を実施している。職員は入居者をさりげなく誘いながら排泄用品への配慮や手作り品でトイレ周りを整え、「使いたくなるトイレ」環境を作っている。紙パンツから布下着への移行に繋がった例など、入居者の自信ともなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しつつ、飲食物の工夫や水分を多めに摂っていただいたりしている。入浴を勧め、腹部マッサージをしたり、運動の働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定はあるが、希望に沿いながら自由入浴をしている。入浴拒否時は、無理強いせず言葉掛けに配慮し、清潔保持に努めている。また、近くの温泉施設を利用した支援も行っている。	週3回程度を目安に支援しており、夏場の発汗時にはシャワー浴を取り入れ、地元の温泉施設を利用するなど地域資源も活用している。午前中に入浴を基本にしているが、拒否の方には午後から再び誘ったり、臨機応変に対応している。季節風呂で変化を持たせ、会話や歌でゆっくり関わり楽しむ入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ日中の休息を取り入れながら、昼夜逆転につながらないように支援している。また、自室での睡眠が不安な方には、和室へ移動する等して、安心して眠って頂けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。処方の変更があった場合には、連絡ノートを利用し伝えている。変更後の状態観察も行っており、次回の受診時、報告が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技を活かし、潜在的、残存的能力を引き出し、楽しみや生きがいを持てるよう支援している。菜園での作業や同法人の「養護老人ホーム」との交流、外出等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を考慮し、散歩や買い物など外出支援を行っている。個別的に日頃行けない様なところは、家族様に伝え、外出出来る様に、協力体制に努めている。	新しいユニットに設けられたウッドデッキからは、眼下に季節ごとに変化する田畑の様子や車の往来を眺め、日向ぼっこに利用するなど解放感あるスペースとなっている。天気の良い日は付近を散歩し、人々と気軽に挨拶を交わし、地域の一員としての日常も楽しんでいる。地元の祭りへの参加や家族による外出支援、遠出の際には法人の大型車を利用するなど、協力も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様所持とホーム管理がある。所持金を持っておられる利用者様は買い物同行時、支払いが出来るように支援している。ホーム管理は、収支状況を記録し家族様へ定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の機会が多く、電話の申し出はないが、あった場合は職員が対応し、ゆっくり会話が出来る様配慮している。各自家族様宛の暑中見舞いや年賀状作成で、はがきのやり取りが出来、家族様からも喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホーム内に植物や手作りの飾り物、地域の方により、季節を感じる定期的な水彩画を置いて頂いたり、落ち着いた空間作りに努めている。利用者様と手作りの貼り絵を作成し、ホーム内に掲示する事で季節感を採り入れている。	地域からの差し入れや職員が持ち寄った季節の花、写真・絵などが入居者の心を潤し、高い天井の明るい室内に彩りを与えている。図書のある空間には職員が借りてきた大型絵本なども置かれ、いつでも読める状態に準備している。開所時から掲示している童謡『故郷』はホームの歌として、様々な機会に口ずさまれている。	新しいユニットにも『故郷』の歌詞を掲示することで、さらにホームの愛歌として馴染み深いものとなっていくと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルでの空間が、気の合った利用者様ごとに配置され落ち着く場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのものを活かすことにより、その人らしく暮らせる部屋となっている。家族写真や利用者様と一緒に作成した手作りカレンダーを置くなど、あたたかい雰囲気をつくっている。	各居室は職員の手で衛生的に管理されシーツ交換日や布団干し・爪切り・散髪・靴洗いに至るまで、室内環境と合わせ個人の整容についても清潔で気持ちの良い日々を支援している。手作りカレンダーの作成や出窓を活用してプランターを置くなど、成長を楽しみにされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を見極め、トイレや居室に名札を掲げたり、身近な所に生活用品を置き、整理整頓が出来るよう、その方の能力が活かせるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛 II		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	平成26年10月18日	評価結果市町村受理日	平成26年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モダンで落ち着いた大リビングは職員と利用者様の「和みの場」となり、笑いの絶えない楽しい暮らしが営まれています。地域の方との交流も盛んで、気軽に立ち寄って頂ける雰囲気大切にしています。利用者様の楽しみや生きがいでもある菜園では、季節の野菜が収穫でき、また、近くの温泉センターでの入浴も楽しみのひとつとなっています。「その人らしい生活」が送れるよう支援するために、ケアマネジメントセンター方式を継続し、一日の生活リズムの把握、どのようなケアが適切なのかを皆で話し合っています。利用者様の「今」を視点とした取り組みや地域の中での生活基盤の拡充、明るく家庭的なホームの形成をさらに目指して、チームワークを大切にしながら日々頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、重点目標を事務室内、ホール内に掲示し、理念に即した行事計画を立てている。また、毎朝のミーティング時に全職員が目標を発表し、利用者の日常生活の活性化に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉活動や地域活動へ参加し、地域住民との相互交流を深めている。交流が深まることにより近隣住民からホームの為に交流行事が開催されている。最近では、参加者が増えるなど繋がりが拡がり、地域との関係が更に構築されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流を目的としたホーム行事で、キャラバンメイトの役割を活かし勉強会を開催して、認知症の人の理解や支援方法を行っている。また、地域への行事へも積極的に参加し理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの提供報告やホームの運営に関する相談等を行い、意見が運営に活かされている。ホーム行事(敬老会やそうめん流し等)や防災協力体制、地域行事の協力が得られた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、またはグループホームからの相談事や地域福祉に関するの情報交換等を行うなど、連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を開放しており、外に出られる方は、職員が付き添い対応を行っている。研修会、勉強会にも積極的に参加、身体拘束についての理解、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自主的に勉強会に参加し、理解を深め、虐待防止徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業の利用者様は入居されていないが、勉強会に参加し、更にホーム内での自主的な勉強会を行い、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金、入退居の条件等十分な説明を行い、ご家族の相談を聴き、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、日常のコミュニケーションの中から意見や要望を引き出し、家族様からは意見箱や面会時、家族会(年2回)で意見を聞き取り、それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や日々のコミュニケーションにより、随時、職員の意見や要望を聞き、日常業務の流れを見直すなど職員の提案を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて勤務時間の配慮を行い、働き易くされている。行事時は人員を増やす等、職員の負担にならない配慮もされている。日頃の努力や勤務状況等を把握し、職員処遇への反映、向上心を持って働けるような配慮、対応がなされた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内、県外を問わず、研修会には積極的に参加している。法人内でも勉強会が行なわれているので、積極的に参加し全職員が質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、研修の中での交流や相互訪問の活動を行い、互いに良いところを取り入れ、サービスの質を向上し合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、本人様の希望、要望をうかがい、納得の上で、入居して頂いている。良い関係作りをする為に、家族様へ生活歴、趣味等の記入をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、家族様の希望、要望をうかがっている。担当ケアマネジャーからの情報も聴き、ホームに対する不安が排除出来るような関係作りから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの機能を説明し、本人様、家族様の希望をうかがったり、担当ケアマネジャー等の助言をいただいたりして、サービスの対応策を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意思を尊重し、やりたい事、出来る事を見守り、出来ない事が出来るようになる為に一緒に行っている。一人一人との会話の機会を設け、共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密に取り、生活状況、心身の様子等を家族様に伝えている。行事への参加を呼び掛け、本人様、家族様との時間が保てる様、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中に出てきた場所や人名を見極め、個別ケアしている。地域等の行事に積極的に参加し、地域の方との交流の時間を提供することで、馴染みの関係が継続出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。また、利用者様が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態を把握し、必要に応じて本人様、家族様の相談に応じている。施設へ入所された方には経過を見守り、施設へ訪問した際は声を掛ける等関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションから、本人の希望や思いを把握し実践へと繋げている。困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談し、その都度対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族様、外部から面会に来られた時等、会話の中での情報を収集し、日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見を聞き、状態変化に伴い、モニタリングを行いながら介護計画作成者が作成している。またケアマネジメントセンター方式を取り入れ、日々の個別記録を活かし、プランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。見直しについては、日々の状態を申し送り、担当者会議を開き、プランの中に反映させる事に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が急きよ、通院介助が出来なくなった場合などは、希望に応じて柔軟に対応している。外泊、外出の際には、本人様、家族様が満足出来る様に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の消防団、駐在所との情報交換が出来、支援体制の構築が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態変化時は、かかりつけ医へ連絡、状態報告し、受診している。場合によってはかかりつけ医との情報交換も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に状態を報告し、助言、指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるようにしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族様に、回復状況の確認や情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくるとホームでの支援が、現状では出来ない事を入居前に説明を行っている。重度化しつつある場合は早い段階で家族様に状態、状況を説明し、方針を理解していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急処置のマニュアルを作成し、勉強している。また、研修などにも積極的に参加している。夜間時の緊急対応には、地元の職員を当番制にし、すぐに駆け付けられるよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、年2回は近隣の方や地元消防団と合同で、防災訓練を行っている。夜間想定避難訓練や自然災害に対する訓練も取り入れている。災害の発生時に備えて保存食を備蓄している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に置き、人格を把握、尊重し、言葉かけやプライバシー保護には、十分に気をつけ個別ケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の職員とのコミュニケーションにより、本人の思いや希望を感じ取れるように、また、本人様が意思表示し易い様な雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の利用者様の状態に応じて、動いているが、行事の日は集団での歩調、行事の時間に合わせて行動して頂く事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう、支援している。好みの衣装を把握し、一緒に準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに好みの物や旬の物を取り入れたり、利用者様が菜園で収穫した野菜を使うなど家庭的な味付けに心掛けている。皆で一緒に作れる物(餃子、お好み焼き等)を提供し、一人一人の能力に応じて下準備、配膳等一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を作成、記入し、把握している。状態に応じて食事量や食事形態を工夫し、提供している。水分が少ない方には、お茶ゼリーを作る等して水分確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを、毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握、表情や行動を見てトイレへの誘導を行うなど、自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツから布下着へと変更できた利用者様もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しつつ、飲食物の工夫や水分を多めに摂っていただいたりしている。入浴を勧め、腹部マッサージをしたり、運動の働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定はあるが、希望に沿いながら自由入浴をしている。入浴拒否時は、無理強いせず言葉掛けに配慮し、清潔保持に努めている。また、近くの温泉施設を利用した支援も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ日中の休息を取り入れながら、昼夜逆転につながらないように支援している。また、自室での睡眠が不安な方には、和室へ移動する等して、安心して眠って頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。処方の変更があった場合には、連絡ノートを利用し伝えている。変更後の状態観察も行っており、次の受診時、報告が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技を活かし、潜在的、残存的能力を引き出し、楽しみや生きがいを持つよう支援している。菜園での作業や同法人の「養護老人ホーム」との交流、外出等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を考慮し、散歩や買い物など外出支援を行っている。個別的に日頃行けない様などころは、家族様に伝え、外出出来る様に、協力体制に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様所持とホーム管理がある。所持金を持っておられる利用者様は買い物同行時、支払いが出来るように支援している。ホーム管理は、収支状況を記録し家族様へ定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の機会が多く、電話の申し出はないが、あった場合は職員が対応し、ゆっくり会話が出来様配慮している。各自家族様宛の暑中見舞いや年賀状作成で、はがきのやり取りが出来、家族様からも喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホーム内に植物や生け花、利用者様と作成した季節のはり絵や作品を掲示している。また、庭の花壇には季節の花を植え、ホーム内から眺められるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルでの空間が、気の合った利用者様ごとに配置され落ち着いた場所となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのものを活かすことにより、その人らしく暮らせる部屋となっている。利用者様と一緒に作成した手作りカレンダーや、ドアには季節の手づくり花を飾り、あたたかい雰囲気をつくっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を見極め、トイレや居室に名札を掲げたり、身近な所に生活用品を置き、整理整頓が出来るよう、その方の能力が活かせるように支援している。		